

**A** ミスではなく、設計の精度によるものであると考えている。

**Q** 行政の責任は。何のために入札をしているのか。

**A** 目に見えない所は一定のデータで推定して設計するしかなく、現地との相違があれば、適正に金額変更するよう指導している。

**Q** 今年12月にオープン予定であるが、分譲地単価は。

**A** 1㎡当たり1万6千円程度を想定している。

**◆通学路整備費**

**Q** 通学路整備費7591万円の整備内容について。

**A** 通学路点検で把握した危険箇所、対策が必要な所を整備するものであり、路肩拡幅や防護柵の設置等を行った。

**Q** 説明された所は全て市道である。県道は県、国道は国が整備を行うが、町道や農道は。また街灯(防犯灯)は。

**A** 町道は子どもから高齢者まで地域住民の方が使われることを考えると、既存の町道整備の補助金で行ってほしい。防犯灯については道路河川課で一元化している。

**Q** 通学路について、今の制度が良いのか、精査検証をして見直しは。

**A** これまで通り各管理者が予算を確保し、地域住民の協力のもと、通学路安全確保に努めていきたい。

**◆「歌舞伎のまちこまつ」について**

**Q** 250年祭の4年間でかかった費用は。

**A** 平成25年度が7936万円、26年度が8539万円、27年度が7954万円、28年度が9432万円である。

**Q** 経済効果は。

**A** 各種メディアでの自主取材による番組や特集等、全国発信にもつながっており、計り知れない経済効果があったと考える。

**Q** 250年祭が終わり、今後の事業展開は。

**A** 「和文化の華咲くまち小松」というテーマで、九谷焼、石の文化等、様々な文化を盛り込みながら、小松の和文化を広く発信していきたいと思っている。

**◆サイエンスヒルズこまつ「ひとつものづくり科学館」について**

**Q** 3年間の収支決算は。

**A** 平成26年度の歳入は1億1135万2千円、歳出が1億8426万1千円。27年度の歳入は1億347万4千円、歳出が1億4775万1千円。28年度は9719万7千円の歳入、歳出が1億1857万8千円であった。

### みどりの風

**◆浅村起嘉委員**

**Q** スマートこども園・保育所推進費の概要やねらい、内容は。

**A** 保育士の業務軽減を図り、書類作成支援システム導入の補助を行った。園児台帳の作成や管理、保育日誌作成に使う。公立保育所では電子連絡帳を導入し、スマートフォン等により保護者とのコミュニケーション業務の電子化を図った。

**Q** システムによりどんな変化があったか。活用のためのスキルや時間の支援も要望する。

**A** 登降園時刻の記録がICカードの打刻で管理ができる。情報共有がICT化により効率的になった。保護者からは情報を随時確認できる、写真がアップされ子供と見ながら話ができるとの声があった。

**◆南部いきいきオアシス整備費**

**Q** 栗津診療所に併設する施設の整備事業の概要やねらいは。

**A** 南部地域における予防先進、子育て支援、障がい者自立支援の拠点として機能を拡充させた。いきいきセミナーは生活習慣病や認知症等の予防事業を、すくすくルームは育児相談や幼児期の親子の交流、子育て情報の提供を、ほっとスペースは課題を抱える若者の居場所を提供している。

**Q** 福祉充実の実績、1年たつての課題やこれからの活用についての考えは。

**A** 介護の悩みを抱える方と交流する場として情報を身近で得ることができた。小さな子供を連れて気軽に行け気分転換になる、子供の食生活発育など保育士が相談に乗ってくれ安心である、人との交流に自信が持てるようになり働けるようになった等の声を聞いている。より多くの人に利用してもらえようホームページや広報紙で周知を図っていく。

### 無党派

**◆木下裕介委員**

**Q** こども医療費助成市は平成27年10月から保険診療分のこども医療費の自己負担額を廃止した。決算額と対象者は。

**A** 医療費のみの決算額は4億349万6184円であり、対象人数は1万9171人である。

**Q** 平成26年度と比較してどれだけ増えたのか。また、一般財源からの持ち出し額は。

**A** 1億6234万1千円の増となった。平成28年度の持ち出し額は交付金等を差し引き、3億1700万円余りである。

**Q** 見えてきた課題は。

**A** 安易な受診につながらないよう、適正受診の周知を図っていく。



**Q** 助成による自己負担減が過剰受診を招くとも言われるが、本市においてその影響は見られるのか。

**A** 保険者のデータを分析し、過剰受診が疑われる場合については指導方法も検討してきた。

#### 橋本米子委員

◆社会保険・税番号システム整備費等

**Q** マイナンバー情報連携開始はいつ、どの分野で活用されるのか。

**A** 本年10月から本格運用予定であり、介護保険や市民税等、地方税の分野で活用される。

**Q** 個人番号カードの交付数とカードを活用したコンビニ交付数は。

**A** 平成29年3月末で9873件交付している。証明書のコンビニ発行数は1093件であった。

#### ◆はつらつシニア支援事業

**Q** 要支援1・2の認定者が少なくなった人数と理由について。

**A** 介護予防の効果等により前年度から70人減少した。

**Q** 住民主体で行う地域サポートクラブとミニデイの利用者数は。

**A** サポート利用者は28人、ミニデイ利用者は全体で222人である。



## 小松市と台湾彰化市が友好協定を締結 平成29年10月10日(火)

### 協定内容

小松市と彰化市は、両市民の相互理解と友好親善を促進するため、ここに友好都市協定を締結する。

両市は、青少年を中心とする教育文化など様々な交流を推進し、日本と台湾の友好と相互理解及び小松市と彰化市の友好的な交流と協力の発展のため、絶えず努力することに同意する。



平成24年小松市議会と台湾彰化市議会との交流から始まり、平成26年両市議会で友好交流協定を締結。このたび、両市の友好協定が締結されました。

今後、青少年派遣事業やスポーツ交流を進める予定です。

左から  
梅田利和小松市議会議長、  
和田慎司小松市長、  
邱建富彰化市長、  
林榮堯彰化市民代表会代表  
<小松市議会議場>

### 議員派遣

■両市友好協定締結に向けた事前協議を行いました。

期間：平成29年7月25日(火)～7月28日(金)(4日間)

場所：彰化市、台北市等(台湾)

議員：梅田利和議長、吉村範明議員、浅村起嘉議員、片山瞬次郎議員、宮西健吉議員、浅野清利議員の6名

目的：「小松市議会と彰化市議会との友好交流に関する協定」に基づき、新たな両市間での交流に向けた取り組みを協議するため彰化市を訪問しました。

併せて、小松空港国際化推進に向け、台湾日本関係協会、エバー航空台北事務所を訪問しました。



左から宮西健吉議員(前議長)、梅田利和議長、邱建富彰化市長、陳文賓市民代表会副主席  
7月26日(水)台湾彰化市役所にて和田小松市長の親書を手渡しました。



## 予算決算

委員長 灰田昌典  
副委員長 宮西健吉  
全議員所属

### 平成29年度小松市一般会計補正予算(第3号)

#### ■地域おこし推進費について

南部里山エリアの活性化を図るため、総務省の特別交付税を活用し、今後整備予定の粟津温泉交流広場を中心に、地域住民と共に地域おこし活動に従事してもらう地域おこし協力隊2名の活動経費です。協力隊には、周辺観光地への誘客促進策、広域連携プロデュースを行うってもらうことですが、新たな人材を取り入れるためには、すばらしいまちづくりに努めるよう求めました。

#### 平成28年度小松市歳入歳出決算の認定について

#### ■職員人件費について

消防職員や消防団員について、本市の安全・安心のため業務に支障が生じることがないよう、職員や団員の確保に努めるよう求めました。

#### ■救急業務高度化推進費について

救急救命士の養成を行う経費ですが、今後も継続して救急救命士の新規養成に取り組み、目標人員となるよう求めました。

#### ■選挙常時啓発費について

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことにより、県と連携し高校生を対象に出前講座の開催等を行っておりますが、今後は、教育委員会と連携し、従来より行っている小中学校での模擬投票の更なる実施、公立小松大学との連携による新たな取り組み等、若年層に対する様々な啓発活動を行い、投票率向上に努めるよう求めました。

#### ■老人福祉センター運営費について

老人福祉センター千松閣の運営委託を行うものですが、高齢者の憩いの場として毎年延べ3万人を超える利用者があり、多くの市民から継続を望む声が出ていることから、今後も施設の機能維持を図っていくよう求める意見が出されました。

#### ■学校運営費の学校給食調理等業務委託料について

更なる安心・安全な学校給食を推進するため、民間の専門知識・技術を活用した調理業務等の委託を小学校2校、中学校1校で試行してきたものですが、平成27年10月から平成29年3月までの試行期間の中で得られたメリット・デメリットをしっかりと評価・検証し、今後の業務委託につなげていくよう求めました。

#### ■ひととものづくり科学館応援金について

未来を担う子供たちに科学やものづくりの楽しさを知り、体験してもらう活動を充実していくため、市民

や企業、団体から資金の支援(寄附)を受け付けるのですが、今後、サイエンスヒルズこまつを応援するサポーターの裾野をより広げていくためにも、現在の一口あたりの寄附金額について見直しを求めるとともに、PRや募集活動についても積極的に取り組んでいくよう求めました。

#### ■「119の電話」相談費について

年間約1700件の相談を受け付けているこまつの電話カウンセラーの謝金等に要する経費ですが、カウンセラーから、ジェット機の騒音により電話が聞き取りづらいとの声があるため、部屋の防音改修や場所の変更を検討してはどうか、との意見が出されました。

#### ■生活路線バス運行費補助金、地域公共交通推進費について

市内の路線バス及びコミュニティバスの運行にかかる赤字を補てんするための経費ですが、今後、赤字補てん金額の削減に向けたバス利用者の拡大を図るため、路線バスやコミュニティバスの利用促進キャンペーンの実施や利用環境のさらなる向上に努めていくよう求めました。

#### ■航空プラザ管理運営費について

航空プラザは、年間来場者30万人を超える「乗りものまちこまつ」を代表する拠点施設であり、小松市の交流人口拡大にたいへん寄与しているものですが、一部の委員より、戦闘機等に関する展示にはそもそも反対であり、決算を認めないという

意見が出されました。

#### ■北陸新幹線建設推進費について

出来高に応じた建設負担金を県へ支出したのですが、一部の委員より、地元負担が発生することなどから、決算認定に反対であるという意見が出されました。

#### ■鉄道高架下活用費について

JR西日本からの鉄道高架下土地賃借料のことですが、多額の賃料であることから、今後、新幹線高架下にもスペースができることを見越し、有効な活用策を検討するよう求めました。

#### ■循環型社会形成推進費について

DBO方式で進めている(仮称)エコジョーパークこまつ・クリーンセンター建設工事費及び事務費です。現在、平成30年7月の稼働に向けて順調に工事が進捗しているところで、平成28年度末の出来高は13.5%のことです。クリーンセンターの運営は特別目的会社、いわゆるSPCに任せることですが、日常業務に対するチェック機能等、行政がしっかりと関わっていくことや、稼働に際してSPCとの緊密な連携を図るとともに、今後の運営体制について議会へ説明を求めました。

次年度に向けては、様々な意見を踏まえ事業の検証を十分に行い、次年度の予算編成に反映するよう強く求めました。

## 総務企画

委員長	新田 寛之
副委員長	木下 裕介
委員	梅田 利和
川崎 順次	
北出 隆一	
杉林 憲治	
灰田 昌典	

り組んで行くよう求めました。また、駅周辺の利便性、快適性の向上に向けた大胆な施策を引き続き展開していくよう求めました。

### ■議案第64号 工事請負契約について

一部の委員より、入札した3者がいずれも最低制限価格で同額であることや、この結果、総合評価により落札者が決定した入札結果については、理解しにくいとの意見が出され、入札制度のしくみについて、より公平公正で市民にもわかりやすい工夫ができないかとの意見が出されました。

### 委員長報告に対する質疑

議案第56号公立小松大学入学料等徴収条例について、本会議で井田議員より委員長報告に対する質疑がありました。

**Q** 本条例は現段階では採決前、議会で可決されていない。しかし、ホームページ内の入試情報には、入学料金が明示されており、「議決前」等の注釈がない。委員会でのように審議されたのか。

**A** 意図的でなく事務的ミスであり、審議には特段影響がない。条例の中身である入学料の金額等を審議したわけで、今回の議案の議決に全く問題ない。

8月29日付けで文部科学省より公立小松大学の設置が認可され、今後多様な事務手続きと膨大な準備作業が必要ですが、平成30年4月開学に向け着実に準備を進め、魅力ある大学となることを期待するものです。

### ■北陸新幹線小松開業に向けて

新幹線の小松駅停車拡大に向けては、将来を見据え、南加賀全体で取

## 福祉文教

委員長	出戸 清克
副委員長	南藤 陽一
委員	吉村 範明
吉本 慎太郎	
片山 瞬次郎	
宮西 健吉	
宮川 吉男	

### ■子どもおしごとたいけんについて

毎年多くの応募がある「子どもおしごとたいけん」については、これまで、児童の安全性や協力企業の受け入れ態勢等の問題により、定員を固定化せざるを得なかったとの事ですが、会場の変更や開催日数を増やすなど、今後、より多くの小学生が体験できるよう事業の改善を求め意見が出されました。

### ■カブッキーランドについて

本年12月1日に小松駅南にオープンする「こまつアズスクエア」1階に開設されるカブッキーランドについては、市内の幼児教育・保育施設全42施設の代表と小松市、こまつ賑わいセンターで組織されるカブッキーランド運営実行委員会によって企画・運営されることが決定しました。特に子育てスマイルステーション

は、土日も開設される育児相談支援、育児に関するイベントの開催、子育てに関する情報の発信、ファミリー・

サポート・センターの窓口、市内の子育て支援の連携拠点などの多様な機能を併せ持ち、小松市の「子ども・子育て安心ネット」の中核施設として大きな役割を担っていくものであります。今後は、すこやかセンターや児童センター等の既存施設との連携のしくみを市民にわかりやすく明示しながら、積極的な施設PRにより、市民に親しまれ、頼られる施設となっていくよう期待するものです。

### ■げんきっここまつステップアップ事業について

平成30年4月1日に施行される幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領に応じた「健康な心と体」に対する園での取り組みを支援するため、講師等の報償費や園外活動のバスチャーター代、施設使用料等の対象経費に対し、5万円以内の交付金を交付するものですが、交付にあたっては、事業の趣旨に沿った適正な執行に努めるよう求める意見が出されました。

### ■松東みどり学園について

今後も義務教育学校開学までのスケジュールやビジョンなど、新規の決定事項については、地域住民への情報伝達を徹底し、しっかりとコンセンサスを得ていくよう求めました。